

幼 兒 童 話

お父とうさんと先生せんせい

武 田 雪 夫

フミ子ふみこさんのお家うちでは、よく遠足えんそくに出かけました。——お父とうさんの會社かいしゃがお休やすみの日に、お母お母さまと三人で出かけました。お辨當べんとうやお茶ちやや、それからお菓子や果物くだものを持つて行きました。

お辨當べんとうは、一ばん重いので、お父とうさんがお持ちになりました。お茶ちやは、水筒みずびんに入れて、フミ子ふみこさんが肩かたにかけて行きました。それからお菓子や果物くだものは、お母お母さまが持つていらつしやいました。お晝ひるになるころ、景色けしきのよい所に坐まつて、みんなでお辨當べんとうを食たべます。お辨當べんとうを食たべて、お茶ちやが飲のみたくなるころ、フミ子ふみこさんは、水筒みずびんを肩かたからはづして、いつも大きな聲こゑで言いひました。

「お父とうさん、水筒みずびんの栓ふたをこつて下さいな。」
するころ、お父とうさんは、

「はアい。」とい言いつて、水筒みずびんの栓ふたをこるころ、水筒みずびんの蓋ふたを小さいコップのやうにして、その中うちへ、

トッブン、トッブンミ、上手にお茶をついで下さいます。

だつて、フミ子さんの水筒の栓は、それはそれは大へんかたくて、なかなか一人では取れないのですもの。

フミ子さんは、はじめて今年、幼稚園に入りました。

ある日、フミ子さんの幼稚園では、みんなで遠足に行くことになりました。フミ子さんは、お辨當の入ったバスケットを持って、水筒を肩にかけて出かけました。

一、二、一、二、一、二、一、二……。

フミ子さんは、お友だちや園長先生や、それから女の先生たちと一しよに、元氣よく歩いて行きました。

一、二、一、二、一、二、一、二……。

そのうちに、フミ子さんたちは、れんげ草や、たんぼぼのお花のたくさん咲いてる、きれいなきれいな広い野原へ来ました。

「わァい、わァい、わァい。」

みんなは、ほんたうにうれしくなつて、その草の上にお荷物を置くミ、いきなり草の上を駆け出しました。そのうちにジャンケンをして、鬼をきめるミ、鬼ごっこをして遊びはじめま

した。男の子は、お相撲をこつたり、かけっこをしたりして遊び出しました。

それを、にこにこして見ていらつしやつた園長先生が、笛をお吹きになりました。

「ビリ、ビリ、ビリー。」

そして、

「さあ、みんな、こゝへ集つて。こゝ、おつしやいました。

さうするに、フミ子さんたちは、みんな仲よく、先生の前にならびました。

園長先生が、また、おつしやいました。

「さあ、これから、お辨當を食へませう。きこでも好きな所で、お上りなさい。でも、あまり

遠い所へ行かないやうにして下さい。そして又、この笛がビリビリーミ鳴つたら、すぐに又、

こゝへ集るのですよ。」

でも、みんなは、園長先生がこの草の上にお坐りになりますに、すぐに、そのそばへ坐りました。フミ子さんも、先生のすぐ前に坐つて、みんなミ一しよにお辨當を食へはじめました。

あたゝかいお日さまが、お背中をボカボカ照らしてゐます。まあ、あたゝかいこゝ、あたゝかいこゝ、それから、お辨當のほんたうにおいしいこゝ。

そのうちにフミ子さんは、お茶がほしくなりました。フミ子さんは、水筒を肩からはづすに、

大きな聲で言ひました。

「お父さん、水筒の栓をきつて下さいな。」

するさ、みんなが、一しよだ、

「わぁい。」と笑ひ出しました。

フミ子さんは、先生のこきをお父さんなんて言つてしまつたので、はつかしくて眞赤になりました。でも、先生は、にこにこして、「はぁい。」とおつしやつて、水筒の栓をきるさ、水筒の蓋を小さいコップのやうにして、その中へ、トッブン、トッブンと、上手にお茶をついで下さいました。

フミ子さんは、うれしくなつて、そのお茶をのむさ、先生の方を向いて、

「ありがたう。」と言つて、頭を下げました。

先生も、また、にこにこして、フミ子さんの方をこちらになりました。フミ子さんには、そのお顔が、お家のお父さんの通りに見えました。それで、フミ子さんは、前よりも、もつこもつこ先生が大すきになりました。

その時、さこかで、

「ポーッ。」と、お晝のサイレンが鳴り出しました。

おしまひ。